

社会美容科学

～データから可視化する多様な美の追求と
美容系サロン向け生成AIアプリケーション開発～



准教授 畠 圭佑

美の多様性を追求するコンピュータサイエンスの新領域

概要

○研究の目的

社会美容科学は、

1) 美容やコスメ利用による効果と社会コミュニケーションへの影響を科学的に定量化し、多様であるべき美のあり方を追求する。

2) 生成AIを活用して美容系サロンにおける施術者と顧客のコミュニケーションを円滑にし、施術者の魅力と顧客の美の要望を結びつける、ヒト同士の魅力を繋げる仕組みの開発。

の2つの目的で創設した新しい領域です。

○美を科学的に追求すること

「美容は自分を幸せにする」、これが本研究の哲学です。人間が美しいものを美しいと感じる感覚は、先天的な要素と後天的な要素が含まれ、本来は美も多様であると言われます。その多様な美を多様に目指し、そして自分らしく生きるためのツールとして美容があり、様々な美しさの方向性をサポートして多様な笑顔を築ける分野を目指しています。

実用化の可能性

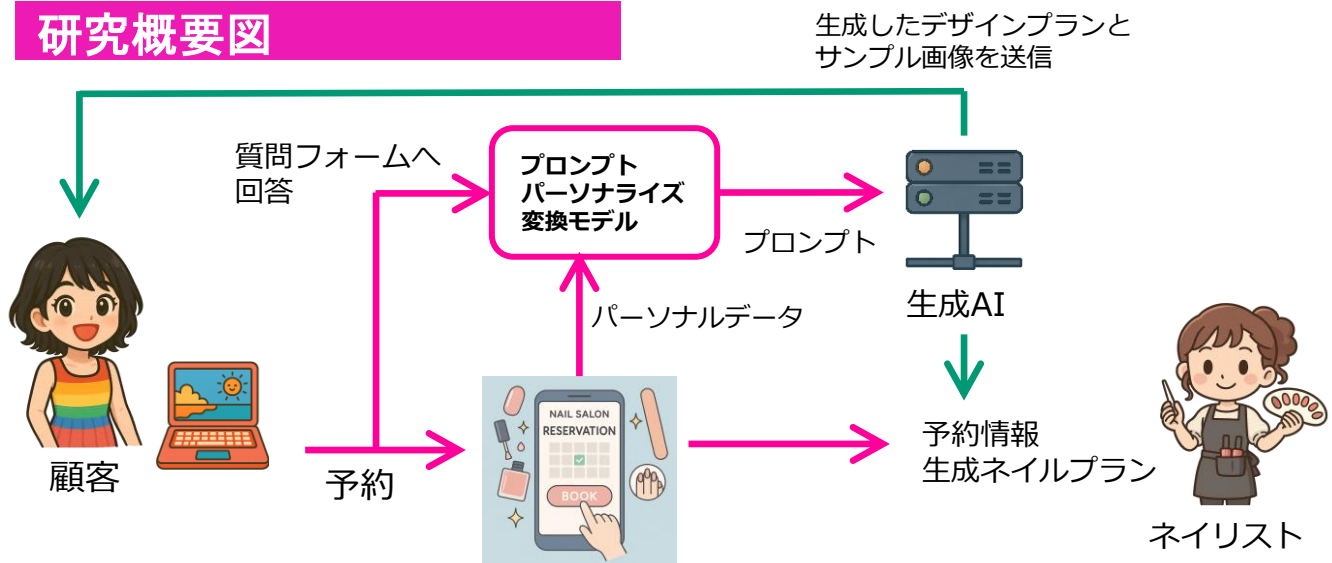
○美容系サロンのサポートツールとして

現在、生成AIアプリケーションについては、美容系サロンへの実用可能性を目指して現場レベルでの機能性やレイテンシーなどの調査を行いながら協業やプロトタイプの実証などを目指しています。その他、予約時での事前カウンセリングツールや、施術中の会話から必要なキーワードを抽出しながらプロンプトを構成するアプリケーションの提案なども行なっています。

UBICからのメッセージ

本来、主観的な評価で議論されがちな外見や美の要素や美容の社会的な効果について科学的・客観的な側面から見える化したり、美容サロンでの会話補助によって自分らしい美の追求をサポートする領域を包括した新しい学術分野の創設に関わる研究シーズです。美容分野全般での活用可能性の他、会話を重視する現場での展開の可能性もある幅広い社会実装を目指した研究領域でもあります。

研究概要図



ネイルデザインカウンセリングシステムのプロトタイプ(ネイルサロンと協業打診中)